



(左から)同協会広報の谷口さん、代表理事の平林さん、特攻隊長の山根さん



フォーマルスタイルのボトムール



ボトムール姿で登壇する福岡市長(茨木市提供)



豊中市の長内市長

吹田市の後藤市長



摂津市の森山市長

高槻市の濱田市長

CULTURE

車いすでランウェーを 茨木発のブランドがパリコレ出展を目指す

茨木市に拠点を置く一般社団法人「日本障がい者ファッション協会」が、障がいの有無にかかわらず、誰もが着られるデザイン性と機能性を兼ね備えたスタイルを発信するブランドを立ち上げた。今秋のパリ・コレクション出展を目指す。

— 「福祉 × オシャレ」で「障がい」のイメージを変える

同協会の代表理事、平林景さんは元美容師。身近な人に発達障がいがあることを知り、福祉の世界へ飛び込んだ。現在、発達障がいをもつ子どもが通う放課後等デイサービス「かしのき教室」(茨木市)の運営に携わる。

「福祉にオシャレを掛け合わせ、世の中の「福祉」や「障がい」に対するイメージを変えること」を目指す平林さん。「かしのき教室」

も、誰もが通いやすくなるようなカラフルでデザイン性の高い施設を目指した。子どもの長所を伸ばすマンツーマンの指導でも人気を呼んでいる。

— ブランド立ち上げのきっかけ

ブランドを立ち上げるきっかけになったのは、車いすの男性の一言だった。「人の手を借りて試着することが心苦しくなり、オシャレは諦めた」。誰でもオシャレを楽しめる服があればとの思いから、ブランドの立ち上げを決意。一昨年に同協会を設立した。

昨年9月には、車椅子でも簡単に着脱できる巻きスカート「ボトムール」が完成。平林さんらの思いは行政にも届き、「福祉と教育」をテーマに講演した際には、ゲストとして茨木市の福岡洋一市長がボト

ムールを履いて登壇した。

— 「ボトムール」とは

「ボトムール(bottom'all)」とは英語の「bottom」と「All」を掛け合わせた造語。性別、年齢、障がいの有無にかかわらず、誰もが履けるボトムスという意味を込めた。腰回りはマジックテープを採用し、車いすでも一人で簡単に着脱できる。男性でも履けるよう黒を基調にデザインした。

「僕らは障がいの服を作ってる訳ではない。障がいの有無にかかわらず、誰もがカッコよく、オシャレになれる服を作っている」と平林さんは話す。

— パリコレ出展を目指して

「車いすでランウェーをしたときの未来

がみたい」と言う平林さん。現在、パリコレ出展を目指して、車いすのモデルを選考するなど準備を進めている。「フォーマルな服を着たくても、車いすだとジャケットの裾を踏んで、シワになる」という車いす利用者の意見を参考に、丈の短いジャケットも制作。フォーマルスタイルも完成した。

パリコレ出展への思いに共感した福岡市長の後押しで、このプロジェクトに対して茨木市の後援も決定し、フランス領事館への働きかけなどで大きな支援を得ている。

「車いすに乗ることが当たり前の世界だったら、見たこともないデザインの服が生まれてはいたはず。車いすだからこそカッコいいと思えるようなデザインを生み出していきたい」。平林さんらの挑戦は続く。

CULTURE

摂津市出身のシンガーソングライター「コレサワ」さん 3rdアルバム「純愛クローゼット」をリリース

切なくポップなメロディーと共感を呼ぶ歌詞で人気のシンガーソングライター「コレサワ」さんが3月10日、3rdアルバム「純愛クローゼット」をリリースする。「さまざまな愛の形を表現した」という今作への思いや、茨木から始まる全国ツアーへの意気込みを聞いた。

— 「この場所でワンマンライブをしたい」

幼い頃から歌手になるのが夢だった。はっきりとプロを志したのは高校3年生のとき、東京のライブハウスで行われた歌手オーディションの全国大会に出場したのがきっかけだった。「関西代表で来てるからMCでおもしろいこと言ったり、いっばつ東京でかましたろうと思ってたんです(笑)。でもいざ2000人を前にするとめっちゃ緊張して、自分の名前と曲名しか言えなくて」。賞も取れず、悔しい思いをした。「プロになって絶対この場所でワンマンライブをしたい」と思った。

卒業後すぐ、歌手を目指して上京。多いときは月に5〜6本のライブをこなしながら、自主制作のCDを出したり、アルバイトをしたり多忙な日々送った。「悩む暇がなくて。とりあえずやるしかないみたいな

(笑)」。そんな中、渋谷のライブハウスにたまたま遊びに来ていた今のマネージャーと出会い、2017年、1stアルバム「コレカラー」でメジャーデビューを果たす。

— 地元での思い出

2歳頃から18歳まで摂津市で過ごしたコレサワさん。「中学生の頃、モノレール摂津駅の近くの河原によくギターを持って行って弾いたりとかしてましたね。学校に行きたくない日とかあるじゃないですか(笑)。避難場所でした」。

高校で軽音楽部に入ると、文化祭や卒業ライブの練習で茨木のライブハウス「JACK LION」に通うように。ボーカルを担当し、女性ロックバンドの楽曲をカバーしていた。「メンバーは音楽のプロを目指してる子たちではないから、あくまでも「部活」。『楽しもう』みたいな感じでやりました」。その傍ら、コレサワさんは歌手になる夢を胸にソロボーカルの練習も重ねていた。

— 友達にも言えないことを歌詞にして

「暗いことは明るく、明るいことは暗く歌う」という楽曲は、特に10代〜20代といった若い女性の支持を得る。「日記を書いて



るみたいに、友達にも言えないことを歌詞にするのが楽しくて。こんなこと思うの自分だけかなと思う気持ちを書くこともあるけど、ファンの方が「共感します」と言ってくれると「あ、自分だけじゃなかったんだ」と思える。聞いてくれる人も『コレちゃんもそう思うんだ』って思ってもらえたら嬉しいな」と話す。

— 3rdアルバム「純愛クローゼット」

本作は「愛が溢れる作品を作りたい」という思いで制作された。新曲8曲を含む全12曲を収録。「愛」をテーマにした理由は「(前回のミニアルバム)『失恋スクラブ』を作り終わったときに、『もう失恋ええかな』と思って(笑)。次は、いろんな愛情がいっぱい詰まったアルバムにしたいと思った」から。

2月〜3月にはNHK「みんなのうた」に書き下ろした新曲「愛を着て」が放送され

ることも決定している。さらに4月10日から、ライブハウス「JACK LION」を皮切りにツアー「愛を着て、会いに来て。」がスタートする。

「久しぶりに弾き語りで全国を回ります。みんなはマスクをしながらになっちゃうけど、コミュニケーションをとりながらまったり歌えたら良いな」。今年の個人的な目標は「美白」だとか。「美白になってツアーを回れたら一番理想かな(笑)」。



「純愛クローゼット」
3月10日発売(キングレコード)
初回限定盤(CD+DVD)
4,620円

摂津市出身のシンガーソングライター。2017年に1stアルバム「コレカラー」でメジャーデビュー。メディアに顔出しはせず、素顔が見られるのはライブのみ。「れ子ちゃん」と呼ばれるクマのキャラクターがビジュアルを担当する。